

日本一のかきの町 江田島市 ～私たちの県の自然や産業と人々の暮らし～

平成 18 年 11 月 29 日

第 4 学年 2 組

1 単元の目標

関心・意欲・態度	広島県の自然や産業と人々の暮らしに関心を持ち、課題について意欲的に調べ、考えながら追究している。
社会的な思考・判断	広島県の自然や産業と人々の暮らしについて調べ、調べたことをもとに、産業と人々の暮らしは、自然条件や地理的条件などと関連していることを考え、適切に判断することができる。
観察・資料活用の技能・表現	地形図や土地利用図、写真などの資料を活用して広島県内の特色ある産業や、それに関わっている人々について、具体的に調べることができる。調べたことや結果を分かりやすくノートに表現することができる。
社会的事象についての知識・理解	広島県内の地域は地理的条件を生かしながら生産活動を行っており、そこで生活したり産業に携わったりしている人々は、その地域の特色を生かしながら生活していることを理解することができる。

2 単元について

指導の手だて

- (1) **出発は実物の提示** 江田島市の観光パンフレットや、かきなどの実物を提示することにより、江田島市のかき養殖に対する興味や問題意識を持たせる。
- (2) **東広島市と比較** 学習活動の中で江田島市の自然条件や地理的条件、産業の様子を明確にとらえられるようにするために、自分たちが住んでいる東広島市と比較しながら考えさせる。
- (3) **ノートで思考をふくらませる** 授業時に本時の課題に対する予想や資料から読み取ったこと、自分の意見をノートに書くことで、思考の流れを明確にしながら自分の考えを深めさせる。
- (4) **深め合いのポイントは根拠を示した自分の意見** 写真や資料やこれまでの学習内容を根拠にして自分の意見を述べ合うことで、互いの意見を深め合わせる。
- (5) **ペアトーク** ノートに書いた根拠のある意見をペアトークで交流した後、全体で発表し、友だちの意見との違いを認め合い、深め合わせる。
- (6) **キーワードまとめ (読解力育成)** 江田島市の特徴を、20字以内で端的にまとめさせ、思考の構造化を図る。

児童は

【江田島市について】本学級の児童は、地図帳を活用した地名当てクイズで広島県内の市町的位置や地名に少しずつ興味を持ち始めている。しかし、その市町が一体どのような環境でどのような人々が生活しているのか、知らないことがほとんどである。江田島市についても同様で、江田島市を知っていると答えた児童は多かったが、その島でどのような産業がなされていて、人々がどのように生活しているのか、みんな知らない。

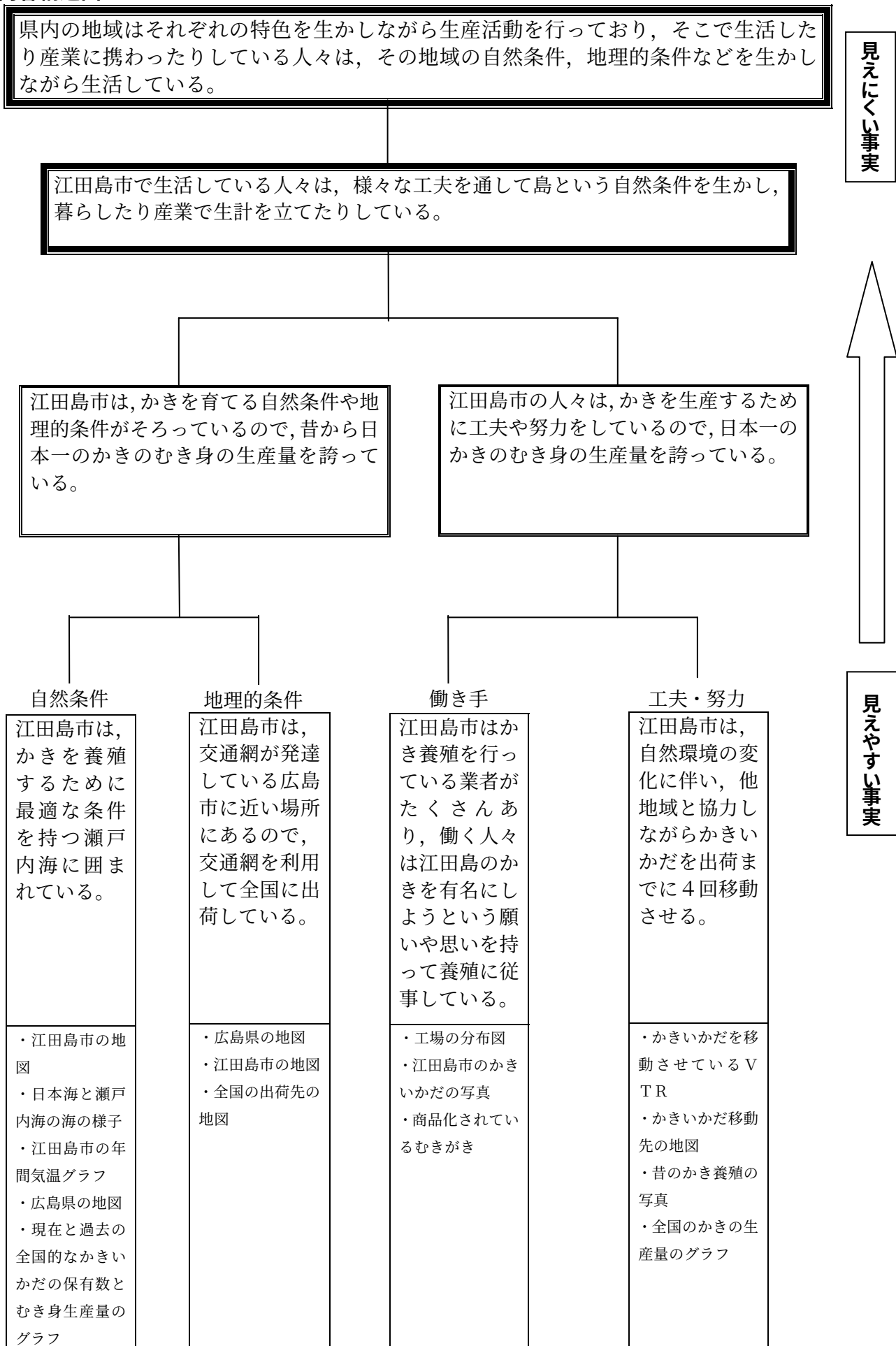
【考えを持つ】自分の考えをノートに書く時間を設定することで、ほとんどの児童が自分の考えを持つことができるようになってきた。しかし、書いていても発表できない児童がいることが課題である。また、お互いに意見を出し合いながら学級全体で考えを深め合うことがうまくできないので、考えの根拠を示す発言の仕方を指導していく。

この単元は

【概略】広島県内の庄原市高野町、江田島市、東広島市、安芸郡熊野町における具体的事例を通して、それぞれの地域では、地理的条件を生かしながら生活をし、産業を営んでいることを学習する。そして、県全体の特色を考えることができるようにする。

【中心となる内容】江田島市では島特有の地形と温暖な気候、波が穏やかな瀬戸内海の特色という地理的条件を生かして、ミカンや花、キュウリやかきが生産されている。中でも、かきいかだの保有数ならびにかきのむき身の生産量は日本一で、広島県内最大規模のカキ養殖産業を行っている。しかし、近年岩手県をはじめ、他県のかきの生産量も伸びてきているという現状もある。児童には、江田島市のかきを守るために人々が底知れぬ努力や工夫をしていることに気づかせ、江田島市の産業を通して広島県を誇りに思うことの一つにしてほしいと考えている。

3 内容構造図



4 指導計画（全5時間 本時 4／5）

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準
III	1	江田島市はどんな市か調べて学習計画を立てる。  江田島市はどんな市なのだろう。	写真や資料から江田島市の特産物や産業に関心を持ち、学習課題をつかんでいる。 【関心・意欲・態度】
	2	昔からかき養殖が日本一である理由を自然条件から調べる。  なぜ昔から江田島市では、かき養殖がさかんなのだろう。	昔から広島県ではかきの生産がさかんであり、それは今も変わらず第1位である理由を、瀬戸内海の自然条件から読み取ったり、江田島市と東広島市の自然条件を比較しながら読み取ったりしている。 【知識・理解】
	3	交通手段と働き手の視点から、かき養殖日本一の理由をさらに調べる。  かき養殖が日本一な理由は他にもないのだろうか。	かき養殖が日本一である理由について、交通手段（地理的条件）や働き手の視点から調べる中で理解している。 【知識・理解】
	4 （本時）	かきいかだを移動させる理由について考える。  日本一の江田島市のかきいかだを、なぜ移動させるのだろう。	出荷までにかき筏を瀬戸内海の様々な場所に移動させる事例を通して、江田島市では変化しつつある自然条件や地理的条件を克服して生産量日本一を守るために工夫や努力をしていることについて考えることができる。 【思考・判断】
	5	江田島市の産業についてまとめる。  江田島市のセールスポイントは何だろう。	江田島市では、自然条件や地理的条件を生かして、絶えず工夫と努力をしながら、かき養殖産業に取り組んでいることについて理解している。 【知識・理解】

参考資料

第1次	広島県ってどんな県？	1時間	
第2次	りんごだ！雪だ！ 庄原市高野町	3時間	
第3次	日本一のかきの町 江田島市	5時間	
第4次	日本一の精密機械 A社	4時間	
第5次	世界一の筆の町 熊野町	3時間	
第6次	広島県ってこんな県！	1時間	全17時間

5 本時(第4時)の目標

○江田島市では変化しつつある地理的条件を克服して生産量日本一を守るために工夫や努力をしていることについて考えることができる。

6 本時の展開

思考過程	発問・指示	予想される反応	指導の手だて ☆評価規準 ◎研究仮説との関わり
つかむ	1 この船は何をするための船だろう。 ・船の写真	・かきを海から採る船かな。 ・かきいかだを見回る船。	・船の大きさとクレーンに注目させ、かき養殖にかかわるどのような働きをする船なのか想像させる。
	2 この船を使って、かきいかだを、どこに移動させるのだろう。 ・筏が移動する場所が記された地図 ・	・大きなかきいかだを移動させるなんてすごい。 ・廿日市市や宮島町、五日市に移動させるんだね。 ・移動させた後のかきは大きいし、きれいだね。	・かきいかだを廿日市や宮島、五日市方面に移動させていることを知らせ、学習課題を持たせる。
考える	かき生産日本一の江田島市では、なぜかきいかだを移動させるのだろう。		
	3 なぜかきいかだを移動させるのか予想してみよう。	・えさが多いところへ移動するためかな。 ・台風が来たときによけるために移動するのかな。 ・昔は川でかきを養殖することができたんだね。 ・昔の方が、いろいろな場所で養殖されているよ。 ・瀬戸内海の様子が、昔と今とは変化して厳しくなっているんだね。 ・移動させることで江田島市のかきの生産量を守っているんだね。	◎自分の予想を授業の中で確認できるよう、ノートに書かせる。(ノート) ・昔と現在では、かき養殖の様子が違うことに気づかせるとともに、広島県でのかき養殖の環境が変化していることをつかませる。 ・かき養殖に必要な地理的条件が年々変化しており、それは昔に比べて江田島市のかき養殖に大きな影響を与えていることに気づかせる。
	4 昔のかき養殖の様子を見てみよう。 ・川で育てられている写真 ・昔養殖されていた場所を記した地図		
	5 かきを養殖されている方の話を聞こう。 ・インタビューのVTR		
深める	6 なぜかきいかだをいろいろな地域に移動させるのか、写真や地図、VTRをもとに考えよう。	追いつかれそうになっている広島県のかき養殖をよくしようと江田島市では工夫しているんだね。	◎自分の考えを根拠を明確にしてノートに書かせた後、互いの考えを深め合うために話し合いをさせる。(話し合いの様子)
	昔とは環境が変わってきている瀬戸内海でかき養殖を続けて全国第1位の生産量を守るために、人々は工夫や努力をしているんだね。	かき筏移動の専門の船まで造って、みんなで力を合わせて頑張っているんだ。	広島県のかきのおいしさと量を確保するために、広島県内のいろいろな地域がお互い協力し合いながら、かきいかだを移動しているんだね。
まとめる	7 今日の学習内容を五・七・五でまとめよう。(少し字余りでも可とする。)	日本のかき守ってる かきいかだ 他地域と協力しよう	☆変化しつつある地理的条件を克服して生産量日本一を守るための江田島市の工夫や努力を五・七・五で表現している。 (ノート) ・主体的に調べ学習ができるように声をかける。
	8 次の時間は江田島市の産業についてまとめよう。		

(指導者：藤原由弥)